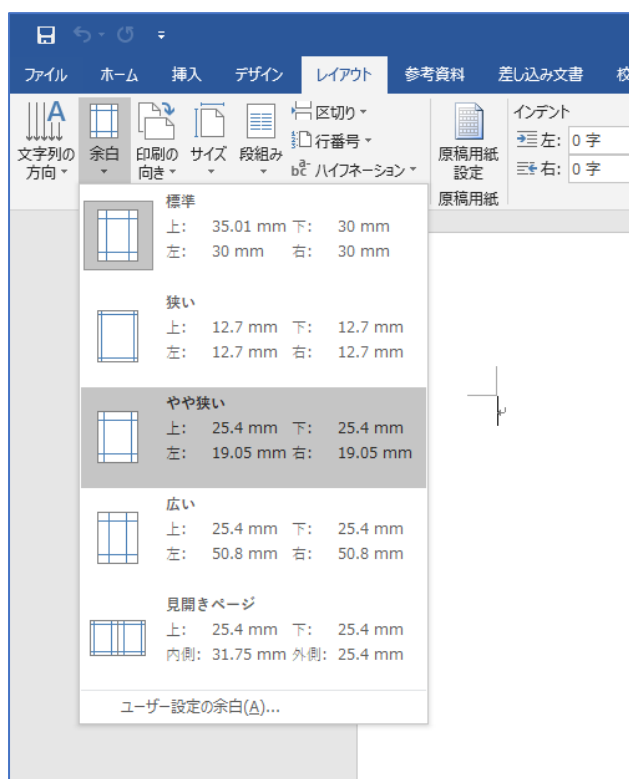


地区別実技研修報告のまとめ方



*ここに示しているまとめ方は、一例になります。あまり細かなことは気にしませんので、まとめやすいまとめ方で、提供していただければと思います。

1、「レイアウト」→サイズ→**「A4」(縦)**

2、「レイアウト」→余白→**「やや狭い」**

3、文字のサイズは、**「12」**を基本とする

4、フォントは特にこだわらない

*上記のような設定にさせていただき、写真込みで4枚程度にまとめていただければと思います。

*府美研 HP に鍵付き(パスワード)で掲載させていただきます。個人情報については、事前に確認をお願いします。

*HP への掲載は、各地区の実施時期により順次行います。夏季休暇中に実施される地区については、9月上旬を目途に、**下記連絡先まで提出**してください。また、今年度からの取組みとなりますので、質問等がありましたら同じく下記連絡先までよろしく願いいたします。

運営委員会配布時の資料でアドレスを確認していただくか、
泉南市立一丘小学校までお問合せください。

(HP で学校アドレスの公開を控えさせていただきます)

泉南市立一丘小学校 府美研広報部 須川 明人

★報告文書内にまとめていただきたい内容

①地区名 ②実技研修日時 ③会場 ④内容 ⑤講師先生 ⑥実技研修内容

コロナ禍以前に発行していた『府美研』機関紙の内容を参考したいと思います。お持ちでない方もいると思いますので、参考に貼り付けておきますので↓ご確認ください。

【以前の機関紙は、「段組み2段」になっていますが、今年度は段組みの必要はありません。】

(10)

制作手順⑧
裏側にサンドガラスト加工する場合はデザインを左右反転する。デザインしたトレーシングペーパーを裏返し、カーボン紙を重ねてカッティングシートに転写する。

制作手順⑨
カッティングシートをガラス素材に貼り付ける。空気や気泡が入らないように注意する。

制作手順⑩
カッターナイフで下描きに合わせて切り抜いていく。最後に保護テープなどで、砂が入らないよう総柄部以外を埋めつくす。

制作手順⑪
サンドガラスト加工卓上ガラスト機で砂を吹き付ける。面の部分はムラの出ないようにまんべんなく吹き付ける。

完成作品


制作を振り返って
今回はサンドガラストを初めてされた方がほとんどだったので、下絵の段階からほぼ無言でも集中して作品制作をしていました。ガラスト加工の終わった方も2つ目に意欲的に取り組んでおられました。加工にはデザインによっては、かなり時間がかかる方もおり、終了予定時刻を1時間程度過ぎた方も何名かいました。作品の出来上がりにも満足された大変有意義な実技研修となりました。

泉北地区

日時 9月11日(火) 14:00~16:00
会場 和泉市立緑が丘小学校
内容 絵画「星であそぶ」
講師 田中 孝治 先生
(元大阪大学特任教授)

制作手順⑫
ペンキングを剥がす。ガラストが完了したらガラス素材を取り出して、カッティングシートを剥がす。

サンドガラスト加工中


結核時間がかかるので並んで待っています。

準備物 筆 (大、中、小)、サザリ、水入れ、パレット、ぞうきん、習字下じき

準備物 筆 (大、中、小)、サザリ、水入れ、パレット、ぞうきん、習字下じき



(11)

今年度は和泉市の実技講習会でもお世話になった田中孝治先生に「星であそぶ」を題材に、いろいろなことを教えていただきました。当日は、緑が丘小学校の図書室で行いました。大変な暑さの中、泉北地区の先生だけでなく、他地区からも参加していただきました。

<材料と道具について>

(1) 墨について
ア 墨は、菜種油の加練や松の木を燃やして出た灰をみかきで練り固めたもの。これを水とともに瓶ですってできる黒色の液、書画を書くのに用いる。(前者は油煙墨、後者は松煙墨といわれている。)簡便にまたは大量の墨汁が必要の場合は、市販の墨汁を使うこともある。
イ 墨色の分類
濃墨(真つ黒な墨)、茶墨(やや赤色がかった墨)、青墨(やや灰色で青みがかった墨)などがある。

(2) 紙(和紙)について(和紙とは、中国産の紙や洋紙に対する用語)
一般的に、画仙紙・奉書紙・麻紙・鳥の子紙などの種類がある。産地の名前を付けた紙も多い。紙によって様々な厚さがあり、にじみ具合も多様である。
(3) 筆、刷毛について
本来は、日本画用の筆や刷毛を使うが、児童用には水彩画筆で代用できる。
筆や刷毛への墨の含ませる程度によって、潤筆・濁筆の表現は生まれる。
濃い墨色…濃墨、濃墨に少し水を含ませた墨色…中墨、中墨よりも水を含ませた薄い墨色…淡墨という。

<実技1>

(1) いろいろな墨の濃さで模様を描く。
①筆に淡墨や中墨をにじませて、半紙(つばい)に大の点を描く。
②さらに、濃墨で、点を描いてアクセントをつける。
③その上に、太い線・細い線で墨・筆による軌道びをし、墨染めのような模様をつくる。

(2) 墨と和紙の特徴を生かした「にじみ」による模様をつくる。
①中墨で1円玉ぐらいの円を描く。
②その中心部に水筆で、水を落とし込むと、墨が周囲ににじみ出て模様ができる。
③点の大きさ、墨の濃さを変えて、試してみる。

(3) 墨・和紙の性質を確かめる。
ア バテナイフの手法を生かして
①半紙の半分に、水だけで線や点を描く。
②あと半分に、牛乳を含んだ筆で線や点を描いて、しばらく置いておく。
※少し間をおいて、上から中・濃墨を重ねる。(重ねるときには刷毛を使ったり、墨を入れた霧吹きで吹きかけるのもよい)
水や牛乳で描いた部分は墨をはじき、水や牛乳で描いた線が浮き出てくる。

